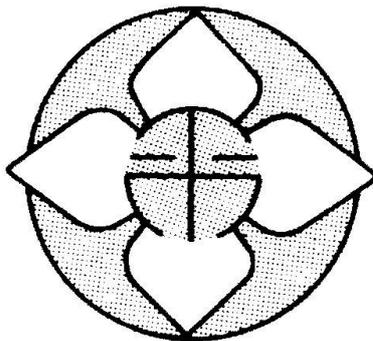


令和7年度

「運営に関する計画」
(最終評価)



大阪市立平野南小学校
令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和6年度に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果は、平均正答率では、国語・算数ともに全国、大阪市の結果を下回っている。国語では、全国とは13.7ポイント、大阪市とは12ポイントの開きが見られる。また、算数では、全国とは10.4ポイント、大阪市とは9ポイントの開きが見られる。また、平均無回答率については、国語・算数ともに全国、大阪市の結果より高くなっている。国語では、全国より2.6ポイント、大阪市より3.5ポイントの開きが見られる。また、算数では、全国とは2.8ポイント、大阪市とは3ポイントの開きが見られる。平均無回答率の高さが平均正答率を押し下げてしまっている要因の一つであると考えられる。

国語では、物語の人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題については、平均正答率が全国より0.4ポイント、大阪市より0.3ポイント上回った。しかし、領域別で比較すると、どの領域においても全国、大阪市の結果を下回っている。特に「書くこと」については、全国より19.8ポイント、大阪市より17.3ポイントの開きが見られる。伝えたいことを明確に表現したり記述したりすることへの課題があることが示唆された。

算数では、除数が小数である場合の除法の計算については、平均正答率が全国より6ポイント、大阪市より7.3ポイント上回った。しかし、領域別で比較すると、どの領域においても全国、大阪市の結果を下回っている。特に「変化と関係」については、全国より13.2ポイント、大阪市より12.3ポイントの開きが見られる。道のり・速さ・時間の関係についての理解に課題があることが示唆された。

生活面について問う質問紙の結果は、いくつかの質問項目で全国、大阪市の結果を上回る結果があった。その中で「授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」項目については特に良い結果となっている。しかし、「自分で学び方を考え、工夫することができる」などの項目で、全国、大阪市の結果を下回る結果となっている。また、ゲームやスマートフォンの使用に関する質問において全国、大阪市よりも使用時間が極端に多い結果が伺える。さらに、就寝時刻が全国、大阪市より定まっていないことも質問調査により明らかとなった。これらの学習習慣や生活習慣が児童の学習環境に影響を与える一つの要因であると考えられる。

令和6年度に実施した「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果は、実技調査における体力合計点は、男子女子ともに全国平均を上回っていた。種目別では、長座体前屈・50m走・ソフトボール投げが男子女子ともに全国平均を上回っていた。握力・上体起こしは男子女子ともに全国・大阪市平均を下回っていた。

質問紙調査の「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目に対し、「好き」と回答する児童の割合は、男子女子ともに全国・大阪市平均を上回っていたが、男子において「やや嫌い」「嫌い」と回答する児童の割合が全国・大阪市よりも高い結果となっていた。また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子女子ともに全国・大阪市平均を上回っていたが、420分以上の児童の割合は全国・大阪市平均を上回っていた。

本校は、休み時間や放課後に外遊びをすることが好きな児童が多く、学級担任を交えたクラス遊びなども盛んに行なわれている。また、体力向上のための持久走や大縄跳びを全校で取り組むことで、冬季の運動量確保に努めている。しかし、校区の特性上公園が少なく、一旦家に帰ると遊ぶ場所が少なく発達段階に即した運動量を確保しにくい現状がある。質問紙調査の「スクリーンタイム5時間以上」の児童の割合が全国・大阪市平均よりも高いことから放課後の運動量が少ないことが示唆される。今後も放課後の校庭開放をはじめ、遊びや運動ができる機会や場所を提供できるよう努めていきたい。質問紙調査の「体育の授業は楽しいですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合は、全国・大阪市平均を上回っていた。今後も体育科の授業改善を行うとともに、運動することの大切さや必要性の指導を継続していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.08ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.08ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を40%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の55%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を60%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 年度目標については目標を達成できなかったが、取組内容では目標を達成し一定の効果をを得ることができた。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 学力面では年度目標を達成できなかったが、体力面では目標を達成することができた。基礎学力の向上と読書離れに歯止めをかけることが課題である。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 児童の学習者用端末の利活用については、向上がみられるものの、年度目標の達成には至らなかった。
- ・ 教職員の働き方改革については、年度目標を達成することができた。

大阪市立平野南消防署 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自己肯定感や自己有用感を感じることが出来る授業を実践する。 ・学級活動やみんな遊びを通して、互いを認め合える集団を育成する。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートで「大切な友だちがいる」と肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 	A
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んであいさつできる児童の育成。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・児童会を主体とした自発的な「あいさつ運動」に学期1回以上取り組む。 ・学校生活アンケートで「自分から進んであいさつしている」と肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 	B
取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観や文化を持つ子ども同士が互いの違いを認め合い、高め合える多文化共生教育を推進する。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象とした外国人教育の研修を年1回以上行う。 ・外部講師による異文化の体験的な学習に1学年以上で取り組む。 	B
取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 <ul style="list-style-type: none"> ・互いの違いを理解し、認め合う集団の育成に努める。 ・多様な体験活動を実施する。 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートの「体験活動は好きです」と肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 	B

<p>取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練を行い、防災・減災教育を実施する。 ・年1回の防犯訓練を行う。 ・教職員を対象とした防犯研修を年1回以上行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートの「火災や台風、地震の時や学校に不審者が来た時にどうすればいいかわかりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年生で70.0%、4年生で77.7%、5年生で79.7%、6年生で83.8%となっており、目標の85%をいずれの学年でも達成できなかった。 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は、3年生で85.7%、4年生で76.2%、5年生で87.5%、6年生で82.3%となっており、目標の85%以上を2学年で達成できた。 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年生で65.7%、4年生で65.1%、5年生で78.2%、6年生で77.5%となっており、目標の80%以上をいずれの学年でも達成できなかった。 <p>【取組の進捗状況の結果と分析】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校生活アンケートで「大切な友だちがいる」と肯定的に回答する児童の割合は、97.6%で指標を大幅に上回ることができた。児童が自己肯定感や自己有用感を感じることができる授業を実践し、各学級で、みんな遊びやいいとこみつけなどの多様な活動に取り組んだ。 ②学校生活アンケートで「自分から進んであいさつしている」と肯定的に回答する児童の割合は、79.8%で指標を上回ることができた。児童会を主体とした自発的な「あいさつ運動」に学期1回実施することができた。しかし、挨拶を返す児童は多いが、自分からするのはまだ難しいようである。 ③多様な価値観や文化を持つ子ども同士が互いの違いを認め合い、高め合える場としてオリニフェ発表会や奇数学年の課内実践を行うことができた。また、ソンセンニムからのお話や交流は学年に合ったものを実践することができた。しかしながら教職員の研修の内容については、国際理解や文化的背景についての内容を実践していくよう検討する必要がある。 ④学校生活アンケートの「体験活動は好きです」と肯定的に回答する児童の割合は90.8%で指標を上回ることができた。 ⑤学校生活アンケートの「火災や台風、地震の時にどうすればいいかわかりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は93.5%で指標を上回ることができた。今年度は児童が参加する形での防犯訓練が実施できた。また、いざという時のための学校の合言葉も昨年度より浸透させることができた。 	

次年度（今後）への改善点

- ①これからも授業や休み時間で多角的に子ども同士の結びつきが深まる工夫を実践していく。
- ②あいさつ運動のめあての設定の際、「自発的」という部分に焦点を当て、改善できるようにしていく。
- ③オリニフェ参加児童が減少しているという課題があり、学校の実態に合った異文化交流の機会を絶やさずに実践していく必要がある。
- ④今後も学年に合わせた児童が楽しんで学習できる体験活動を継続して行えるようにするために、今年度実施した体験活動の良い点や改善点を次年度の学年担当に引き継いでいく。
- ⑤児童へのフィードバックの場が少ない。反省点を事後指導として共有するなど、避難訓練と防犯訓練の事前、事後指導の更なる充実が今後の改善点として挙げられる。

大阪市立平野南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.08ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を40%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎基本の定着を図るため、朝学習の時間の活用や放課後学習に取り組む。 ・ 高学年において、教科別指導による学習指導を取り入れる。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ モジュール学習に各学年年間35時間以上取り組む。 ・ 小学校学力経年調査における、標準化得点を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。※3年生は前年度の3年生と比較する。 	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 木曜日の朝学習で「DREAM」を活用し、低学年からの英語活動に取り組む。 ・ C-NETを活用し、楽しく英語に触れあえるようにする。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 	
取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書時間に読書を楽しむことができるようにする。 ・ 「絵本広場」を開催する。 ・ 区の取り組みの「ひらちゃん読書ノート」を活用し、読書に対する意欲を高める。 	C
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活アンケートで「本を読むことは楽しい」と答える児童の割合を70%以上にする。 	

<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力保持増進のため、体育の学習、体育的行事の充実を図る。 ・各学年の実態に応じた「学習カード」を作成し、活用を図る。 ・冬の運動を実施する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおける「運動やスポーツをすることは好き」と肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養だよりを活用し、食の大切さと規則正しい生活習慣について定期的に指導する。 ・全教職員で食物アレルギーに対する理解を深め、アレルギー児童の共通理解を図り、食の安全に努める。 ・給食週間を利用し、自分の食について振り返る場を作る。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で栄養指導を年1回以上実施する。 ・学校生活アンケートで「朝ご飯を毎日食べている」に肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較した結果、6年生は-0.04ポイント、5年生は-0.03ポイント、4年生は+0.08ポイントとなっており、目標の0.08ポイント向上できたのは4年生のみとなった。 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は、3年生で34.3%、4年生で22.2%、5年生で26.6%、6年生で45.2%となっており、目標の40%以上を達成できたのは、6年生だけであった。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は、3年生で75.7%、4年生で74.6%、5年生60.9%、6年生で69.4%となっており、実績値は70.2%で目標の70%以上を達成できた。 <p>【取組の進捗状況の結果と分析】</p> <p>①小学校学力経年調査における、標準化得点を同一母集団において経年的に比較すると、6年生は+0.1ポイント、5年生は-4.0ポイント、4年生は+2.4ポイント、3年生は昨年度の3年生と比べ+1.1ポイントとなっている。計画的に朝学習に取り組み、どの学年も35時間以上モジュール学習を行った。基礎基本の定着が難しい児童には、放課後学習などで個別指導などにも取り組んだ。各学年教科別指導を取り入れることにより、教員の授業力の向上も図れ、児童の学習意欲の向上にもつながった。</p> <p>②小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、3年生で77.1%、4年生で69.9%、5年生67.2%、6年生で79.0%となっており、目標の80%を達成できなかったが、計画的に木曜</p>	

日の朝学習で「DREAMタイム」に取り組んだ。楽しんで英語学習に取り組めるようにチャンツや歌、体を使ったゲームなども取り入れてきた結果、「DREAMタイム」を楽しみにしている児童が増えた。

- ③ 学校生活アンケートで「本を読むことは楽しい」と答える児童の割合は68.6%で、目標の70%を達成できなかった。休み時間に図書開放を行ったり、朝の時間に各学級に絵本の読み聞かせに行ったり、児童によるおすすめの本のポップづくりをしたり、読書週間を設けクイズなどを行って図書の紹介をしたりなど、図書委員会の活動として、多くの児童が図書に親しめるよう様々な活動を行ってきた。また、司書の先生が読み聞かせをしてくれたり、季節ごとに選書をし、レイアウトを変えてくれたりと協力いただいた。さらに計画的に絵本広場を開催したが、「ひらちゃん読書ノート」の取り組みでも、目標を達成し、応募にいたる児童が減ってきている現状にある。
- ④ 学校生活アンケートにおける「運動やスポーツをすることは好き」と肯定的に回答する児童の割合は、86.4%で、目標の85%を達成できた。各学年で単元に応じた「学習カード」を作成し、児童が達成感を味わうことができる工夫をした。また、冬の運動では、大縄跳びでクラス目標を設定し、それに向かって団結して取り組む姿が見られた。
- ⑤ 学校生活アンケートで「朝ご飯を毎日食べている」に肯定的に回答する児童の割合は、91.1%で、目標の90%を達成できた。栄養教諭が中心となり、年1回の栄養指導を行うことができた。また、給食週間では、各クラスで目標を設定し、意識して取り組むことができた。アレルギー対応でも大きなトラブルなく給食指導を行うことができた。朝ごはんについては、家庭との連携が必要なので、今後も児童への声かけを行ったり、栄養だよりを活用したりして、保護者への周知を行っていききたい。

次年度（今後）への改善点

- ① 基礎学力の定着を目指し、取り組みを強化していく必要がある。
- ② 英語の学習に対しては、苦手意識をもっている児童が一定数いることも事実であるので、そういった児童がどうすれば意欲的に学習に取り組めるかを考え、授業を工夫していく必要がある。また、C-NETの先生をより活用して、児童が自ら英語を聞いてみたい、使ってみたいと思えるような授業展開の工夫をしていきたい。
- ③ 図書の学習時間の確保がなかなか難しい現状があるが、毎週金曜日の読書タイムの継続や隙間時間での読書の推奨などの取り組みを強化し、読書に親しみを持てる児童を増やしていきたい。
- ④ 単元に関連させた体づくり運動を取り入れたり、運動が苦手な児童も取り組みやすいスモールステップの活動を授業の最初に取り入れたりして、児童の運動能力向上を図っていききたい。
- ⑤ 給食指導の中で旬の食材や行事食の話をして、児童にもっと食に興味を持ってもらう機会を設けたい。また、エプロンマスクの着用率の向上や残食率の減少に力を入れたい。

大阪市立平野南小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 55% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕 ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 60% 以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育DXの推進】 <ul style="list-style-type: none"> ・「こころの天気」の入力を行う。 ・デジタルドリル「navima」を活用する。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールライフノートの「こころの天気」の入力を 1 日 1 回以上行うように声掛けする。 ・学校生活アンケートで「ICT を使った勉強は好き」と肯定的に回答する児童の割合を 80% 以上にする。 	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆとりの日」「学校閉庁日」を設ける。 	B
指標 <ul style="list-style-type: none"> ・週に 1 回「ゆとりの日」を設定する。 ・夏季休業及び冬季休業に「学校閉庁日」を設定する。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数は 0 日で、目標を達成できなかったが、昨年度よりも利活用率は上がっており、最も活用した日で 78.4% であった。 ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合は、61.29% で、目標の 60% 以上を達成できた。
【取組の進捗状況の結果と分析】 <p>① 学校生活アンケートで「ICT を使った勉強は好き」と肯定的に回答する児童の割合は、89.0% で、目標の 80% を達成できた。デジタルドリルだけでなく、Word や PowerPoint といったソフトを利用して、学習内容をまとめる活動をしたり、学習者用端末を使って課題を提出したりと、様々な用途で学習に ICT を使ってきた。</p>

② 週に1回「ゆとりの日」を設定した。また、夏季休業および冬季休業に「学校閉庁日」を設定した。

次年度（今後）への改善点

① 児童は ICT を使った学習に前向きであることがわかったので、学習意欲向上のツールとしても授業の中で活用する工夫をしていきたい。

②次年度も今年度の取組内容を継承し、学びを支える教育環境の充実に努めていきたい。